



よしだつうしん  
吉田通信

第117号  
【2024年6月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一人通信です■■

◆会社としての改善策◆

こんにちは。お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第117号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、実は先日、社内でミスが重なってしまい、お墓を一から作り直すことができました。

お客様からお墓を建てるご依頼をいただき、その際、お客様から営業社員に「隣のお墓とだいたい同じ高さにしてほしい」とご要望がありました。

高さを出すときに、コンクリートの基礎部分で調整することがあります。ただ、当社のルールでは、コンクリートの基礎で高さをプラスしていいのは、地面から10cm未満。もし、それ以上の高さが必要な場合は、石材によって高さを出すという社内ルールにしています。

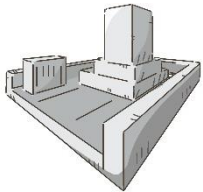
ところがです。先日、そのルールが守られず、漫然と基礎で15cm上げられていました。さらに、隣のお墓と高さを同じにするには25cm上げる必要があります、そもそも、高さも足りず、お墓を解体して一から作り直すことになってしまいました。

何があったのか。まず、営業社員が25cmのところを15cmと思い込んでいました(ミス1)。そして、本来は入力しなければならない契約書内の基礎の寸法部分が空欄に(ミス2)。営業社員の上司も契約書に空欄があったのにも関わらず、漫然とサイン(ミス3)。営業社員が図面に手書きをしていた「15cm」を施工部門の工事責任者も15cmを漫然と許可(ミス4)。結果、基礎部分で15cmの高さを出したお墓が作られてしまいました。

上司が「空欄になってるよ」と指摘するなり、工事責任者が「15cmはダメだよ」と指摘すれば、そこで事が大きくなり、そもそも15cmではなく25cmだった！と気がつくでしょうし、基礎ではなく

石材で高さを出し、お墓を一から作り直すなんてことにはなりませんでした。

人間なのでミスはあります。会社として今できる改善策は、契約書内、基礎の高さを入力する箇所に10cm以上の数字は入力できないようにプログラムを変更すること。これによって、同様のミスが起きる可能性は下げられると思っています。



◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただきまして、どうもありがとうございます！さて、毎年6月上旬に開催されます新潟市南区の伝統行事、白根大凧合戦。私たち吉運堂も出場してきました。コロナ禍が明けた後では初めて天候にも恵まれ、本当に多くの人で賑わい、コロナ禍前を思い出しました。ちなみに、今年の吉運堂の成績は、勝ち数を競う優勝の部で8位、勝負数を競う技能の部で7位でした。また来年も頑張ります！吉田竹史

■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが025-372-1138までご連絡をお願いいたします。■

【発行者プロフィール】

名前:吉田 竹史(よしだ たけし)  
生年月日:昭和40年8月21日(O型)  
出身地:新潟県白根市(現・新潟市南区)  
経歴:都内の学校を卒業後、証券会社(水戸&ニューヨーク)の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味:上手くないゴルフ、強くない将棋  
(NHKの将棋対局を見ることは好きです)  
家族構成:妻、娘、息子



吉田 竹史